

カープラザ 関西 かわらばん

平成24年 9・10月号 発行元 カープラザ関西株式会社
神戸市長田区東尻池町6丁目1番24号 TEL: (078)671-2205

来る平成24年10月1日から各損保会社が新制度に突入する。当初1年間は周知期間とするものの、事故があれば“事故有料率”が適用され、3年経過までは“事故なし料率”には戻らない。

今回の新制度において大きなポイントは二つ。事故有料率の存在と等級据え置き事故の廃止に伴う1等級ダウンの新設だ。

先ず1等級ダウン事故とは、今まで盗難やいたずらは“据え置き事故”扱いで次年度も等級の上げ下げがない、等級は据え置きになっていた。それがこの度据え置き廃止のため、1等級ダウンするというもの。しかも、もう一つの新制度である“事故有料率”にも該当し1年間事故有料率として保険料が上がる。

事故有料率とは、例えば事故がない10等級(45%割引)と、

		制度導入前	制度開始
新契約の保険期間の初日		平成24年9月30日以前	本適用
割増引率		現行係数に対応する 割増引率(%)	無事故係数に対応する割増引率(%)
等級	20等級	▲ 63	▲ 44
	19等級	▲ 61	▲ 42
	18等級	▲ 59	▲ 40
	17等級	▲ 57	▲ 38
	16等級	▲ 55	▲ 36
	15等級	▲ 52	▲ 33
	14等級	▲ 50	▲ 31
	13等級	▲ 47	▲ 29
	12等級	▲ 44	▲ 27
	11等級	▲ 40	▲ 25
	10等級	▲ 37	▲ 23
	9等級	▲ 33	▲ 22
	8等級	▲ 28	▲ 21
	7(F)等級	▲ 23	▲ 20
	全年齢	▲ 10	+11
等級	21歳以上補償	▲ 15	▲ 11
	26歳以上補償	▲ 28	▲ 40
	35歳以上補償	▲ 28	▲ 40
	年齢条件対象外	▲ 28	▲ 39
等級	6(F)等級	▲ 17	▲ 19
	全年齢	+25	+28
	21歳以上補償	+10	+3
	26歳以上補償	▲ 5	▲ 9
	35歳以上補償	▲ 5	▲ 9
等級	年齢条件対象外	0	+4
	5等級	▲ 10	▲ 13
	4等級	▲ 1	▲ 2
	3等級	+10	+12
	2等級	+26	+28
	1等級	+52	+64

(注1)表の▲は割引、△は割増を表しています。※損保ジャパン自動車保険マニュアルより抜粋



各種サイズ取り扱い致しております。工賃・バランス・廃タイヤの各料金は別途かかります。

自動車保険新制度

来る平成24年10月1日から各損保会社が新制度に入する。

当初1年間は周知期間とするものの、事故があれば“事故有料率”が適用され、3年経過までは“事故なし料率”には戻らない。

今回の新制度において大きなポイントは二つ。事故有料率の存在と等級据え置き事故の廃止に伴う1等級ダウンの新設だ。

先ず1等級ダウン事故とは、

事故があり3等級下がつて10等級(23%割引)になつた人では割引率がおおはばに異なる。同じ等級でも事故の有無で保険料がバラバラになるというもの。この場合、3年間は別料率の道を進むが3年後は同じ事故なし料率の14等級に晴れて復帰できる。(経過時間が2年ほどあるためこの割引率は本適用時

のもの)
現在自動車保険は群雄割拠の時代。アイデアを絞り出し保険料に格差が出始めてはいるが、代理店は事故時にお客様の立場に立ち、知識と経験を生かしながら最適なプランもご提案できる存在。自動車保険もぜひ当スタッフにお任せくださいませ。

ECOPIAシリーズ





「新車半額で乗っちゃおう!」 ONIX コンビニエンスカーショップ、オニキ **オニキス商談会**

全メーカー新車が 半額で乗れます!!

詳しくはスタッフまでお問い合わせ下さい。
ぜひともお待ちしております。



モデルチェンジの度に好評のタント
今回はアイドリングストップ機能や
新型低燃費エンジン搭載で絶好調



★その他、多数展示しております。※掲載の中古車の価格にはその他の保険料・税金・諸費用・リサイクル料金等は含まれていません。
※9月5日時点での在庫情報です。掲載車両が高利取扱の際は、この価格より高くなる場合があります。

軽自動車の保有台数は約2760万台7000万台と前年同期に比べ53万台431台の増加、世帯数は5417万台475万台と前年同期に比べ38万台804万台と増加した。保有台数と世帯数をもとに算出した100世帯あたりの軽の普及台数は51・0台となつた。軽の世帯当たり普及台数は1977年以降、36年連続で増加。1982年に5世帯に1台、2000年に2・5世帯に1台、2011年には2世帯に1台を超えた。軽は保険や税金等の維持費が安いことや、規格の改定で軽自動車自体の商品力も向上していることが背景にあると見られる。加えて、所有→ライトな感覚へと変貌していく。その中に選ぶ色の問題もある。コンパクトカーにも言えることだが、原色の軽自動車も珍しくはない。

携帯電話も多彩なカラー、リングで魅了するように、新車販売時の軽自動車の奇抜な採色にも人気がある。古い普通乗用車よりも安全面でも優れ、携帯感覚でワンナップ3年型を選び、3年毎に新車から新車へ乗り換える

ユーチャーも多い。パソコンの買い替えサイクルも早く「1台で10年乗る」という考えは少ない。自動車に對しての価値觀が変わつたのではなく、自動車というものの自體が衣食住の一部であり、体の一部でもあるということではないだろうか？

ローンを完済してしばらく支払いのない生活を送る—そんな考え方も薄れ、ローンは家賃と同じで、毎月の固定的な出費を永遠に組んでも良いのだ。逆に従来型であればローン中・完済後に急な出費もあるため今のご時世には向かない。車にかかる経費は毎月をいかに均等化するかがカギ。

ということで、リッター30km走るミライースは価格も安く相変わらず人気高だ。



中古車も上質!

**軽自動車の普及台数
100世帯に5台…
36年連続で増加！**

